

## 令和6年度 東淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

### 調査結果から

#### 【成果と課題】

##### ○全国学力・学習状況調査結果

###### <国語>

平均正答率が全国の58.1%に対し54%とし、令和5年度の対全国比87%から93%と改善されている。内容としては「話すこと、聞くこと」領域が-9.4ポイントから-4.0ポイント。「書くこと」は-6.6ポイントから-5.6ポイント。「読むこと」は-11.4ポイントから-5.3ポイントとなっている。依然として全国を下回る結果ではあるが、改善がみられている。また、平均無解答率は令和5年度が9.8%(全国は4.6%)から4.5%(全国は3.9%)とし、取り組みに対する意欲も改善している。

###### <数学>

平均正答率が全国の52.5%に対し52%とし、令和5年度の対全国比80%から99%と大きく改善されている。内容としては全国と比較して、「数と式」領域において、-7.9ポイントから-2.0ポイントと改善があった。また、「図形」領域が-8.2ポイントから、+0.1ポイントと全国を上回った。そして「関数」領域も-10.3ポイントから-0.9ポイント、「データの活用」領域も-15.3ポイントから-0.2ポイントと大きく改善している。また、平均無解答率は令和5年度が18.3%(全国は9.6%)から13.3%(全国は11.3%)とし、取り組みに対する意欲も改善している。

##### ○チャレンジテスト(3年生)結果

###### <国語>

府平均65.2に対して63.3と97%(対市比97%)となっている。昨年度(現高校1年)は91%であったので6%アップである。また、同学年(現3年)では94%であり、こちらも3%のアップである。得点分布では府と比較して全体的には同じ傾向であるが、25~29点の割合が多く、95~100点の割合が低い。

問題の分類、区分別にみても、ほとんどが府を少し下回り、大きく課題がある部分は見当たらない。全国学力学習状況調査では正答率が府に対して「読むこと」が4.6%低く、「記述式」も7.6%低かったことから、改善はみられる。

###### <社会>

府平均50.4に対して52.1と103%(対市比104%)となっている。昨年度(現高校1年)は96%であったので7%アップである。また、同学年(現3年)では102%であり、こちらも1%のアップである。得点分布では府と比較して全体的には同じ傾向であるが、20~29点の割合が低く、30~39点の割合が高く、平均点以下の層が頑張っていると思われる。

問題の分類、区分別にみても、ほとんどが府を少し上回り、大きく課題がある部分は見当たらない。

###### <数学>

府平均49.1に対して48.0と98%(対市比98%)となっている。昨年度(現高校1年)は88%であったので10%アップである。しかし、同学年(現3年)では100%であり、こちらは2%のダウンである。得点分布では府と比較して全体的には同じ傾向であるが、のこぎりのようないびつな状況であり、高い割合では府を上回り、低い割合では府を下回っている傾向にある。

問題の分類、区分別にみても、ほとんどが府を少し下回り、大きく課題がある部分は見当たらない。

全国学力学習状況調査では正答率が府に対して「思考・判断・表現」が2.0%高く、「短答式」は2.9%低いが、「記述式」は2.0%高かったことから、全体的には下がっているが、改善もみられる。

###### <理科(C問題)>

府平均52.3に対して51.0と98%(対市比98%)となっている。昨年度(現高校1年)は92%であったので6%アップである。しかし、同学年(現3年)では100%であり、こちらは2%のダウンである。得点分布では府と比較して全体的には同じ傾向であるが、5~9点の割合が高く、10~24点の割合も高い、90~100点の割合が低い。ただ、平均点以上の層は頑張っていると思われる。

問題の分類、区分別にみても、ほとんどが府を少し下回り、大きく課題がある部分は見当たらないが、「評価の観点」の『思考・判断・表現』が1.5点下回り、少し差が大きい。

###### <英語>

府平均53.2に対して48.6と91%(対市比90%)となっている。昨年度(現高校1年)は83%であったので8%アップである。しかし、同学年(現3年)では92%であり、こちらは1%のダウンである。得点分布では府と比較し、10~44点の割合が高い。65~69点の割合が極端に低く、80~100点の割合も低い。

問題の分類、区分別にみても、ほとんどが府を少し下回り、「書くこと」の2.3点や「知識・技能」の3.0点、また「選択式」が3.1点と差がある。

###### 【今後に向けて】

依然として、多くの教科において、大阪府や大阪市の平均に対し、全体的に基礎的な学力が定着していない。しかし、生徒の学習状況に応じたプリントを作成し、添削と助言を行ってきたことから、一定の改善は見られる。基礎学力の定着には自学自習も必要不可欠となるので、デジタルドリルやアプリを活用し、家庭学習にもつなげ、積み重ねることで改善を目指している。授業外においては放課後学習やテスト前学習、長期休業期間学習を継続して活用していく。